

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	杜っこ地域福祉事業所		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者、保護者のニーズに沿った、満足度の高い支援を提供している。	「子どもたち主体」というスローガンの元、決まりきった活動をしないう事で利用者自身の「こうやりたい」という意欲を引き出し、「できない」ではなく、「どうすればできるか」という視点で支援を行っている。 また、できなかった部分よりもできた部分に視点を向けるように意識している。	利用者、家族と今後も信頼関係を築けるよう、コミュニケーションを図っていく。 また、利用者との会話中での何気ない言葉にも耳を傾け、次の挑戦に繋げていけるように支援していく。 早めに活動内容を決める事で見通しをもち、より楽しみに通所していただけるようにする。
2	利用者との会話も含め、保護者、関係機関、スタッフが丁寧に検討し、利用者の特性に合わせた個別支援計画の作成をしている。	毎日、支援前と支援後にミーティングの時間を設けており、気付きや取り組みたい事等を共有している。 ミーティングの時間を確保する為、連絡帳と記録が一体化になっている書式を使用している。 サービス担当者会議に必ず参加し、情報共有をすると共に、送迎時のやり取りも大切にしている。	利用者だけでなく、保護者の様子等にも視点を向け、必要な支援を常に意識する。 何か変化があった時には迅速に情報共有を行い、更新時期に限らず、個別支援計画の見直しを検討する。
3	実践的な研修、訓練が充実している。	各マニュアルを定期的に確認、見直しを行っており、研修も高頻度で行うように心がけている。 また、義務化されているものだけでなく、必要に応じてマニュアルを作成している。 事業所内だけでなく、法人内でも様々な研修が企画されている為、可能な限り参加している。	杜っこでの支援をイメージしやすいような内容にしつつ、スタッフ一人一人が意識して取り組める意識を持つ。 利用者、保護者、関係者に、より安心感をもっていただけるように、研修や訓練を行っている事をInstagramや杜っこ便り等を通じて発信していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他のこどもと活動する機会の不足。	子ども食堂のイベント参加等の機会は設けているものの、時間の関係で限られた曜日の利用者のみになっている。 また、頻度も少ない為、参加できていない利用者の方が多い。	近隣の放課後児童クラブや児童館等に働きかけ、関係性を構築すると共に、交流できる活動の頻度を上げていく。 また、杜っこにも来所していただける時間を設ける等、開けた事業所を目指していく。
2	家族に対しての家族支援プログラム、研修、情報提供等の機会が少ない。	面談や送迎時、連絡帳等での相談事に関する、該当者にしか情報を伝えていない状況だった。	相談に対してだけでなく、有益な情報がある場合には全体に周知すると共に、家族向けの研修の企画、資料提供等をしていく。
3	父母の会、保護者会等の開催等、保護者同士の交流の機会、きょうだい向けのイベント等、きょうだい間の交流の機会の不足。	働いている保護者が多く、年2回行っている保護者会や年1回のきょうだいの参加もできるイベントを開催しても参加率が低い傾向にある。	事前告知時や周知方法に関して、交流する事でのメリット等興味をもっていただけるような工夫をする。 事前に参加しやすいように、内容や日程に関して聞き取りを行い、開催する日程や頻度、内容等を工夫する。